

研究部だより

平成 29 年 8 月 24 日 (木) NO. 4

今回の研究部だよりは…

■ 社会科の授業作りと新学習指導要領

その 1 社会科の究極的なねらい

新学習指導要領の中で示される社会科の究極的なねらいは…

(前略) グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を (中略) 育成することを目指す。

具体的に言うと

- ・ グローバル化
- ・ 持続可能な社会の形成
- ・ 産業構造の変化
- ・ 選挙権年齢の引き下げに伴う政治参加
- ・ 少子高齢化等による地域社会の変化

などに対応し、現代的な諸課題の解決に向けて必要な資質・能力を育んでいくことが求められています。

その 2 社会科の小単元構成

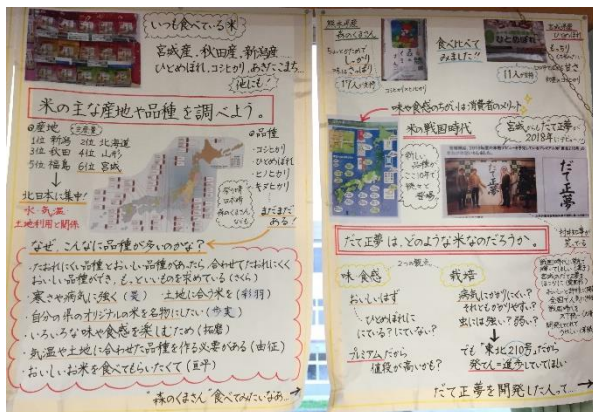
本校社会科部では、前研究の中で小単元のモデルプランを作成しています。それを基に小単元を構成していくことで、子供たちに問題解決的な学習を促すことができます。小単元の流れを、新学習指導要領で記述されている「授業作りのポイント」と併せて見ていきましょう。

モデルプランにおける小単元構成の段階

新学習指導要領から読み取れる大事にしたいこと

① 【つかむ段階】・【立てる段階】

→ 社会的事象と出合い、興味・関心を持つ。また、学習問題とその予想や学習計画を立て、見通しを持つ。



◎地域素材の教材化

例えば…

- 4年 郷土の偉人の小単元
→ 八木山の開発に寄与した八木久兵衛を取り上げる
- 5年 米作りの小単元
→ 宮城県の「だて正夢」の開発を取り上げる
- 6年 聖徳太子の学習
→ JR太子堂駅を導入で提示する

◆子供の生活とつながる導入展開が、その後の学習を支えます。

モデルプランにおける小単元構成の段階

② 【追究する段階】

→ 調査活動や資料収集によって情報を集め、学習問題について調べる。



◆学校の外に出る調査も大事にしたいですね。



◆伝える目的があると、真剣に子供は伝えます。

新学習指導要領から読み取れる大事にしたいこと

◎地域施設の積極的な活用と

地域の人々と直接関わる学習活動の設定

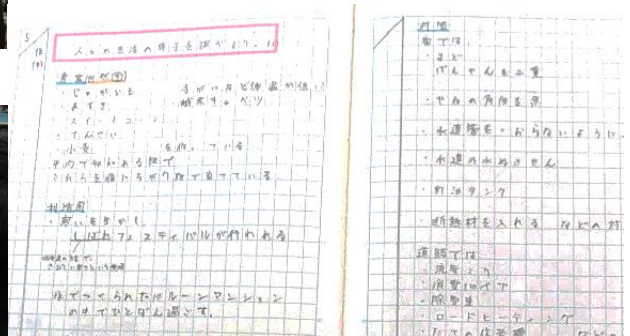
◎実物や本物を直接見たり触れたりする機会の重視

◎第3学年から地図帳の使用開始

→ 地図帳への親しみ、自由自在な活用

◎学び方や調べ方の重視

→ 「児童一人一人」が学び、調べる



◆ノートを調査結果でいっぱいさせたいですね。

③ 【学び合う段階】

→ 得た事実を基に話し合いながら学習問題の解決に迫る。

◎学習問題の解決に向けて、一つの結論を出す

こと以上に話し合いの過程が大切

→ 一方的・一面的にならないように留意



【3年「のこしたいもの、伝えたいもの」】

旧荒浜小に関わる人々への調査を通して得た事実を基に話し合った。様々な立場に立ち、メリットやデメリットを踏まえられると多角的な思考につながる。

④ 【広げる段階】・【深める段階】・【生かす段階】

→ 学びを広げたり深めたりするとともに、実社会に結び付けていく。

◎用語などの知識だけではなく、実社会の中で汎用的に使える概念的知識を獲得させていく

ことが大切



【3年「仙台市の様子」】

地理的な見方で仙台市の特色について学習を進めてきた後、仙台市域の広がりや調査した。時間軸で仙台市の様子を捉え、学びを深めた。

(文責：三浦)